学んだ知識をお客様のために

法務２級に全国１位で合格

山崎　貴彦さん　28歳
天川大島町

　金融に必要な技能と知識を認定する銀行業務検定試験の最難関とされる法務2級で、全国一の成績に輝いた。総受験者数5，101人の中でのトップ合格だ。

「初挑戦で、まさか1位で合格できるとは思わず、合格通知を見た時は驚きました。身の引き締まる思いです」

　JA前橋市金融部の職員で入社6年目。大学では心理学を専攻し、法律は専門外だったが、独学で知識を習得した。

「現在の業務には、根拠となる金融法務の知識が不可欠です。私が習得した知識で、お客様や他の職員の役に立てればうれしいですね」

　座右の銘は「継続は力なり」。学習は時間を決めて、短時間でも毎日継続的に行うことを心掛けたという。

「くじけそうになったこともありますが、意志を強く持って乗り切りました。粘り強く取り組むことの大切さは、サッカーから学んだ部分が大きいです」

　山崎さんは、小学生の頃にサッカーを始め、現在も社会人チームで仲間と共に汗を流している。

「チームワークの重要性はサッカーも仕事も同じです。私の職場は人間関係が良いので、恵まれていると思います」

　JA前橋市では、営農や畜産、共済など、さまざまな事業を展開している。

「将来は他部の業務にも携わり、幅広く活躍できるようになりたいです。お客様に愛される職員になることが目標です」とまぶしい笑顔で語ってくれた。山崎さんの今後の活躍に期待したい。

赤城の恵ブランド

前橋市長 100点満点 之太鼓判

vol. 4

前橋市推奨　赤城山　赤城の恵ブランド認証品

なっからうんめぇ！ 粕川なっとう

　空っ風の吹く赤城山麓の前橋で、妥協を許さず、手間を惜しまず、生産者が丹精して作った「赤城の恵ブランド」。今回は「なっからうんめぇ！　粕川なっとう」を紹介します。

■大豆作りに恵まれた地で

　粕川地区は大豆栽培に適した気候。3年に1度、田んぼで大豆を栽培する「輪作」を20年以上前から行なっているなど、大豆作りが盛んに行なわれています。粕川なっとうは、県から「エコファーマー」の認定を受けている農業生産法人・上州農産が生産した大豆を原材料としています。安心安全な大豆を100パーセント使った納豆は甘みが自慢。「普通の納豆と違う」と評判です。

風味と甘みが自慢

■販売は農産物直売所などで

　粕川農産物直売所（粕川町月田）とファームドウ各店舗で、小粒（2パック）を157円、やらっかい大粒（2パック）を157円、大粒（1パック）を136円で販売しています。

■健康・栄養

　納豆は、蒸した大豆に納豆菌を作用させて作った発酵食品です。多く含まれているたんぱく質は納豆菌により分解され消化吸収されやすい形になっています。また、ビタミンB2やビタミンKのほか、食物繊維も豊富に含まれています。

■生産者からのメッセージ

　商品開発のきっかけは、自ら生産した大豆で作った納豆が近所で評判となったことでした。最近は、徐々に知名度が上がり手応えを感じています。全国に通用する粕川発のヒット商品に育てていきたいと思っています。ぜひ、一度食べてみてください。タレの代わりに塩で食べるのも、大豆の味が楽しめてお勧めです。

問い合わせは
上州農産　☎027−212−6300

クローズアップ

CLOSE-UP

臨江閣に和の文化が集う

　10月19日、県と本市の重要文化財に指定されている歴史ある臨江閣で「まえばし和の文化の集い」を開催。日本舞踊や邦楽の舞台発表、能楽（狂言）、茶席、書の展示などが行われました。茶席では、三中の生徒が茶道を体験し、日本の伝統文化に触れました。

関越道
前橋市
北関東道
上武道路
上信越道

前橋ブランドを戦略的に発信

　10月21日、前橋市シティセールスを東京都で開催しました。本市の充実した子育て環境や企業活動に最適な立地条件などを山本市長がプレゼンテーション。交流・情報交換会では、玉村町と榛東村の関係者も参加し、招待者と活発に意見交換を行いました。

棚田で収穫の喜びかみしめる

　粕川町室沢の棚田では、毎年農業体験が行われています。6月に地元農家と一緒に田植えを行ってから約4カ月後の10月12日に稲刈りを実施。ことしは豊作で、参加者たちは黄色くしっかりと実った稲を丁寧に刈り取り、収穫の喜びを味わっていました。

まつりで盛り上がった2日間

　10月12日・13日にまちなかなどで、前橋まつりを開催。山車やみこし、だんべえ踊り、鼓笛パレードなどに多くの市民が参加しました。オープニングセレモニーでは、ころとんが1日市長に就任。まつりの雰囲気を盛り上げ、たくさんの人たちに囲まれていました。